

「第32回 北九州市PCB処理監視会議」実施結果

1 日時・場所

(1) 日時：平成26年7月23日(水) 14:00～16:05

(2) 場所：若松市民会館 小ホール

(3) 出席委員：浅岡座長、是永委員、清田委員、河井委員、吉永委員、大庭委員、大石委員、嶋津委員、津田委員、成田委員、古野委員
(欠席者なし)

2 会議の概要

- ① 北九州PCB処理事業の操業状況について、日本環境安全事業(株)(JESCO)、本市より報告・議論が行われた。
- ② その後、PCB廃棄物処理の見直しに関する対応について、本市、環境省、JESCOより報告・議論が行われた。

3 主なやり取り、意見等

[議題1：北九州PCB廃棄物処理施設の操業状況について]

(現在の17県分のPCB廃棄物の今年度中の処理完了の見通しについて)

- 車載トランスは既に処理を完了しており、中・小型トランス及びコンデンサについても平成26年度中に処理完了の予定である一方、それ以外は処理完了に至っていないとの回答(JESCO)

(環境モニタリングの結果について)

- 直近の結果として、周辺環境及び排出源ともに、PCB等の全ての項目が環境基準・協定値等に適合していたと報告(JESCO・本市)

(安全操業の体制について)

- 処理施設の拡張は予定しておらず、現行能力の範囲で、非常時にも対応できる操業管理や従業員の健康管理・労働環境にも配慮しつつ、作業員の増員などの処理体制強化を図っているとの回答(JESCO)

[議題 2 : P C B 廃棄物処理の見直しについて]

(処理の安全性の確保について)

- J E S C O にあっては、監視会議の空気を現場にしっかりと伝え、いかなることがあっても危機感を持ち、密に連携することで、絵に描いたぼた餅にならないよう無事故で事業を終えて欲しい（要望）

(期間内での確実な処理について)

- 他地域で可能な限り処理を行うべき。北九州で受け入れることの合理性を他地域の取組み・進捗も含めて明らかにすべき（意見）
- 国は、いかなることがあっても処理期間の再延長はないということをしっかりと心して欲しい（要望）
- 国は、期限を遵守すべく工程管理・スケジュール管理をきちんと行い、その基礎となる最新の量的データや進捗状況を的確に把握すべき（意見）

(未処理機器の掘り起こし・営業活動の重要性について)

- 北九州市が独自に取り組んできたノウハウも生かして全国展開を図るため、関係機関が取り組むべき具体的なロードマップを年内早い段階で示したい。進捗は改めて報告するとの回答（環境省）

(使用中機器に対する毅然とした対応の必要性について)

- 経済産業省と連携し、使用中機器の処理時期等の事業者への確認などの取組みを進めるとの回答（環境省）

(本市の受入条件について)

- 条件履行の施策を国が示すべき。どのように取り組んだのか市民に分かりやすく説明できるよう、国は対応表をできる限り早く示すべき（意見）
- 環境未来都市に係る取組み・連携については、PM2.5対策やエネルギー政策を含む本市の幅広い環境施策を進めるに当たって必要な連携を国にしっかりと求めていくとの回答（本市）

以上